全調政連 ニュース　No. 2026-05

Ｒ８．１０．２０　　発行責任者　幹事長　久保田英裕

全国土地家屋調査士政治連盟ホームページ https://zenchoseiren.net

「狭あい道路解消シンポジウム in 愛媛」

が開催されました。

日　時　令和８年 10 月 16 日（金）13：00～17：00

場　所　松山市民会館中ホール

上記日程により今回で第４回となる「狭あい道路解消シンポジウム」が日本土地家屋調査士会連合会を主催に、全国土地家屋調査士政治連盟他６団体が共催となり開催された。

今回４部構成となり、第１部においては国土交通省住宅局市街地建築課　松井康治課長より、国が進める「狭あい道路解消に向けた取組み」についての基調講演があり、第２部では松山市開発建築部建築指導課　上田修丈主幹より「松山市における狭あい道路拡張整備事業について」の松山市での取組み等の状況説明があった。

第３部では初めての試みであるリレートークが実施され、愛媛県土地家屋調査士会　山内長生副会長がコーディネーターとなり「狭あい道路解消へ、現場からの声－お互い様から始まる道づくりー」をテーマとした、各専門分野から現在の状況、問題点を明らかにした報告があった。

コーディネーター	愛媛県土地家屋調査士会	山内長生副会長
パネリスト	松山市都市整備部道路河川管理課	遠藤敬二郎課長
	松山市開発建築部住宅課	永井信二課長
	愛媛大学地域レジリエンス学環	芝　大輔准教授

愛媛県社会福祉士会　　宇都宮理子理事

公益社団法人愛媛県公共嘱託登記土地家屋調査士協会

末光吏志理事長

（リレートーク参加者上記 6 名）

特に印象深かったのは愛媛県社会福祉士会宇都宮理子理事からの道が狭いことによる、介護・福祉現場での弊害についてであった。

第 4 部では塩崎彰久衆議院議員（現　デジタル・ＡＩ副大臣）による「まちづくりにはたす土地家屋調査士の役割」と題しての基調講演を予定していたが、公務により直接参加はかなわなかったが、リモートによる参加と事前に準備していた画像による説明は圧巻のプレゼンテーション力であった。

最後に当連盟の椎名会長より閉会の挨拶があり、次回開催会である大分県土地家屋調査士会松永建比古会長より、次回開催会としての意気込みを話され、愛媛県土地家屋調査士会から大分土地家屋調査士会へのたすきが渡され閉会となった。

回数を重ねることに内容が充実し、「狭あい道路解消」に向けて、国民の皆さんに周知され、生命・財産を脅かす「狭あい道路解消」が進むことを切に望むものである。

今回参加者の内訳

議員関係	35 名		
官公署職員	51 名		
関係団体	30 名		
土地家屋調査士（愛媛会）	80 名	土地家屋調査士（他会）	125 名
一般市民	7 名		
その他	12 名	計	340 名

（原稿：全国土地家屋調査士政治連盟副会長、狭あい道路解消 PT 委員長・早川正敏）